

伊勢市公共サイン計画

概要版

伊勢市

令和7年5月

第1章 総論

1-1	はじめに	1
1-2	公共サインの種類	2
1-3	適用範囲	3
1-4	課題	4
1-5	基本方針	5
1-6	優先整備方針	6

第2章 設置指針と標準デザイン

2-1	設置の原則と計画手順	7
2-2	案内誘導システム	8
2-3	多言語表記と書体	9
2-4	ピクトグラムの使用	10
2-5	標準デザイン	11

第3章 管理指針

3-1	メンテナンスの考え方	19
-----	------------	----

1-1 はじめに

計画の目的

伊勢市には、様々な公共サインが設置されています。これらの公共サインは、地域住民や来訪者を公共施設や観光地へ誘導する重要な役割を担うとともに、まちの景観を構成する重要な要素の一つとなっています。

伊勢市の既存の公共サインは、合併前の旧市町村が独自に設置をしてきたものであるため、表示情報やデザインが不統一であり、景観への配慮について十分とは言えない状況です。

伊勢市公共サイン計画は、このような状況を踏まえ、これまで整備してきた公共サインを基本として、地域住民や来訪者をわかりやすく案内・誘導するとともに、伊勢市景観計画に基づき良好な景観形成を図ることができるよう、公共サインを整備するための基本的な考え方やルール等を取りまとめたものです。

また、伊勢市の特色を活かした公共サインを計画することで、第63回神宮式年遷宮に向け伊勢市のブランドイメージが向上することを目指しています。

今後、公共サインを新たに設置する際や既存サインを更新する際には、伊勢市公共サイン計画に基づいたデザインとしていくこととします。



「伊勢市観光・案内サイン基本計画（1993年）」をもとに整備された 語り壁（左）、旧二見町の当時の筐体デザイン（中）、旧小俣町の当時の筐体デザイン（右）。

使い方

適切な「整備計画」・「製作」・「維持管理」に努めるためのガイドラインとします。

公共サインとは

伊勢市をはじめ、三重県や国、公的機関等が、案内誘導・利用案内・注意喚起・啓発などを目的に、道路や公園、河川などの公共施設に設置する屋外広告物をさします。

1-2 公共サインの種類

歩行者系サイン



案内サイン



誘導サイン



解説サイン



禁止・規制サイン



防災サイン



観光ルート
サイン

サイクリング
サイン

デジタル
サイネージ

公共サイン

車両系サイン



車両誘導サイン



施設周辺サイン (外構)



駐車・駐輪場サイン



禁止・規制・注意喚起サイン

施設名サイン

施設内サイン



案内サイン



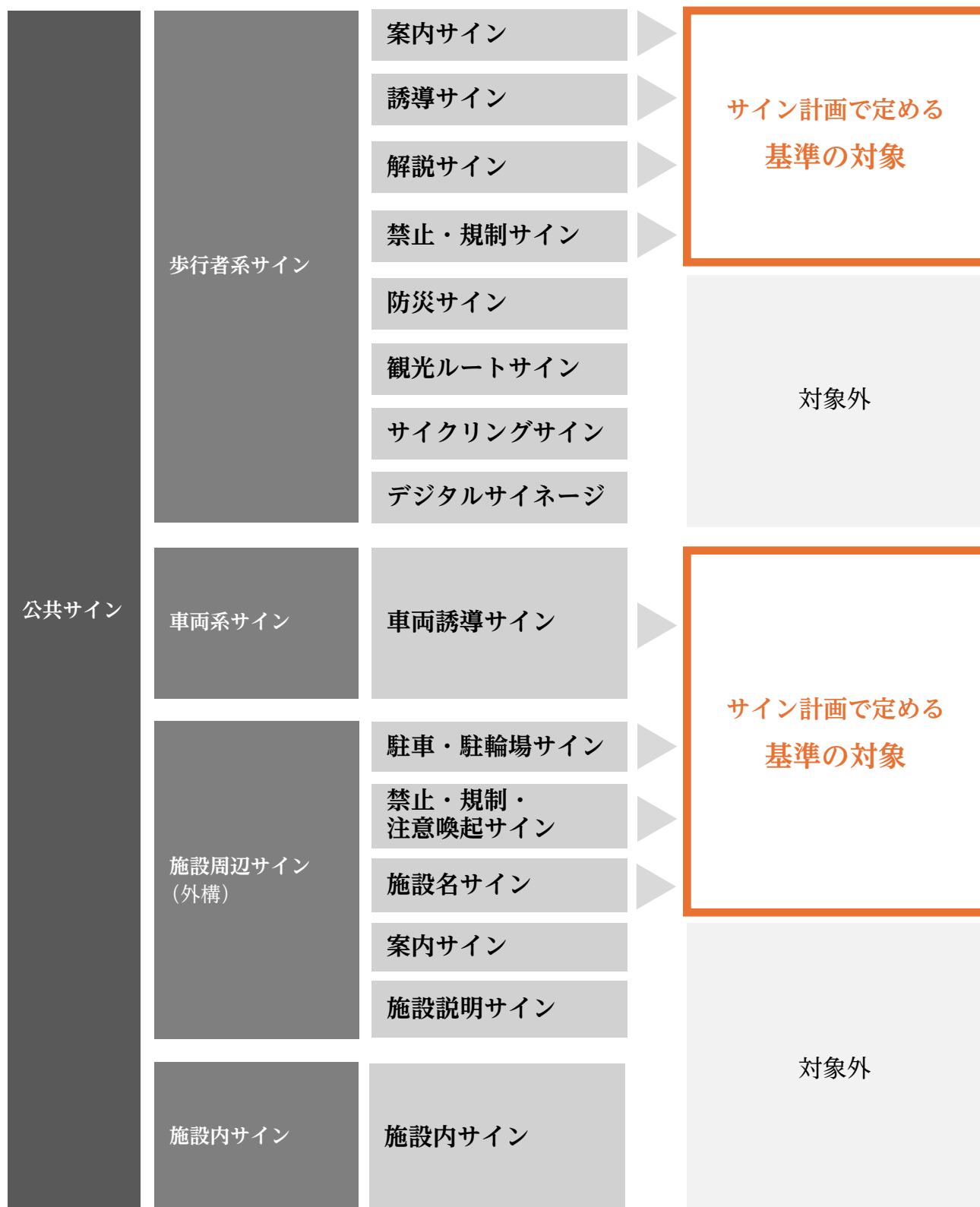
施設説明サイン



施設内サイン



1-3 適用範囲



※「サイン計画で定める基準の対象」とするタイプのサインが
三重県、国、民間の場合は、規制とせず推奨や参考とします。

1-4 課題

【課題】

【対策】

デザインの不統一

- ・年代や担当課毎で筐体デザインや表示基準が異なる。

- ・標準デザインや表示基準の検討。
- ・多言語表記やピクトグラムを活用しユニバーサルデザインを検討。
- ・他媒体との連携の検討。

配置の不均衡

- ・神宮周辺とその他エリアで整備数の多寡に差がある。
- ・鉄道駅でもサイン整備状況に格差がある。

- ・利用実態や将来計画に合わせた整備計画の検討。
- ・誘導対象の整理など観光回遊性を考慮した配置や表示計画の検討。

経年劣化による視認性の低下

- ・自然素材を用いた筐体の老朽化やインクの退色などにより、視認性が低下しているものがある。
- ・雑草等でサイン自体が隠れている。

- ・更新や経年劣化に強い仕様の検討。
- ・清掃やチェックのルールづくり。

維持管理の体制

- ・各課が行う整備状況について、一元的に把握しきれていない。

- ・台帳等管理フォーマット設定。
- ・整備計画の共有など、管理体制づくり。
- ・効率的な情報更新の仕組みづくり。

1-5 基本方針

生成りの景観に調和するデザイン

伊勢市の歴史景観、自然景観に配慮した統一性のあるデザインとします。
また、適切な維持管理を行うことで、サインの老朽化による景観阻害を防ぎます。

「生成り」とは、
神宮の建築素材の使われ方に象徴される、素材自体が持つ美しさのありのままで純粋な状態で都市マスタープランや景観計画にも理念として掲げられる、伊勢市を象徴するテーマです。

誰にでもわかりやすい情報提供

歴史に配慮しながらも、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、適切な配置や表現、また多言語表記やピクトグラム、QRコード活用によって、誰にとっても分かりやすい情報提供を行います。

1-6 優先整備方針

以下のような視点で優先整備することで、効果的に景観性や利便性を向上させます。

① 外宮内宮の景観に調和するサイン整備

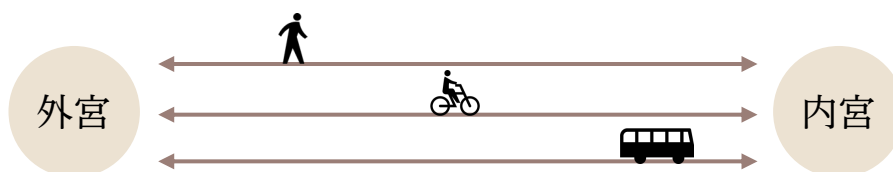
派手な見た目や老朽化、乱立等の景観阻害サインを統一デザインに改修することで、神宮に相応しい景観づくりを行います。



内宮前駐車場の改修イメージ。派手な色彩から景観に配慮した色彩に変更し景観性を向上させる。

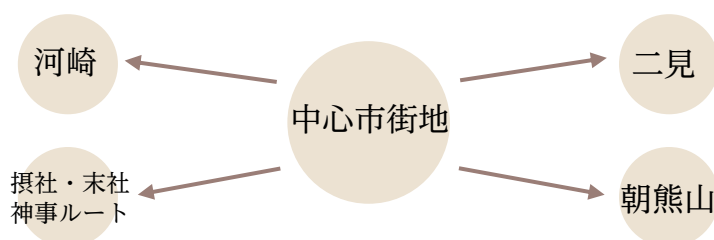
② 外宮内宮間をスムーズに回遊させるサイン整備

御木本道路、伊勢古市参宮街道、御幸道路等の参拝の経路となる道に対して、さまざまな交通手段の利用者を想定したサイン計画を行うことで、回遊の利便性を向上させます。



③ 外宮内宮以外へスムーズに回遊させるサイン整備

二見や河崎、朝熊山、また神宮の摂社末社や神事のルート等に着目したサイン計画を行い魅力を伝えることで、観光価値をより深いものに向上させます。



2-1 設置の原則と計画手順

□ 必要性を検討する

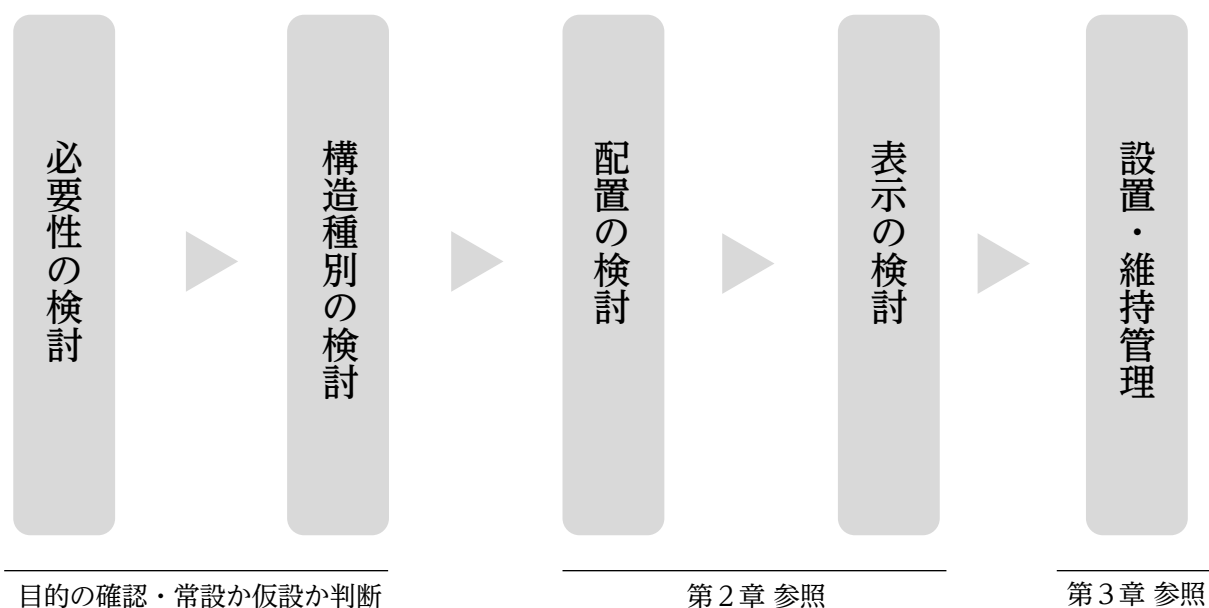
設置にあたって効果や必要性を十分検討します。サイン設置以外の方法も検討し、不要なサインは設置しないものとします。

□ 常設サインを基本とする

公共サインは、良好な景観形成と維持管理の観点から、耐久性のある常設サインを計画的に設置することを基本とします。

仮設サインは、局所的かつ緊急を要する問題や事象に対処する場合のみ一定期間に限り設置できるものとします。

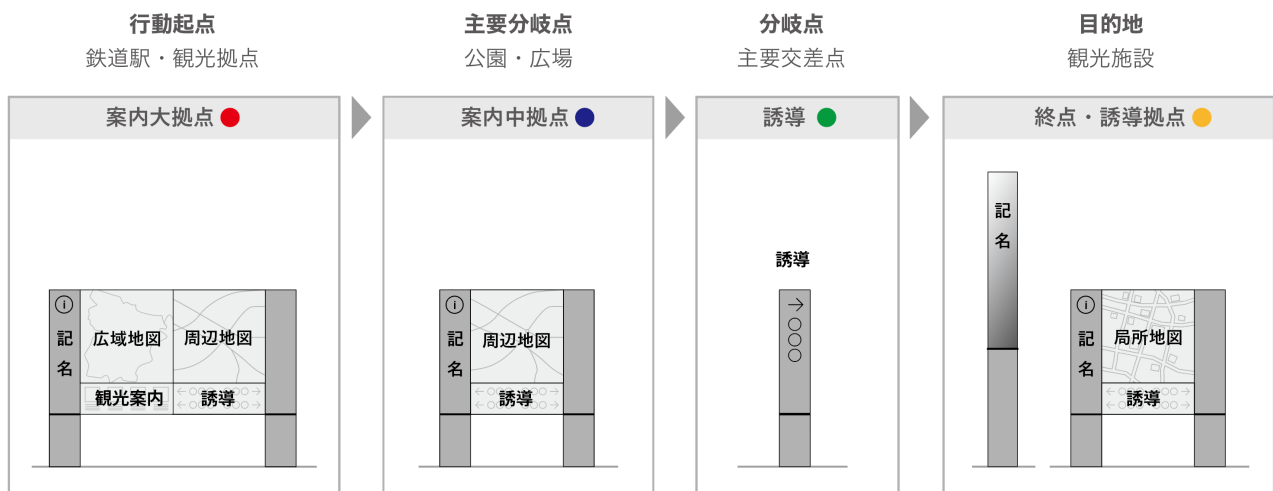
■ 計画手順



2-2 案内誘導システム

- 地図や方面誘導の表示を連続させるようにサインを配置します。
- 駅などの行動起点、途中経路、観光エリア等目的地など、場所に合わせた過不足の無い情報掲出を行います。

情報提供の流れ



案内・誘導拠点の配置と動線のイメージ



2-3 多言語表記と書体

- 原則2ヵ国語表記（日本語・英語）とします。
- 表示板サイズの制約等で表記が困難な場合、日本語表記のみとすることができます。
- 日本語・英語以外の言語掲出が必要なサインは、多言語表記説明文を掲載したHPアドレスをQRコードで表示することを検討します。
- ただし、地図内のピクトグラム等の凡例表示は、多言語表記を検討します。
- 視認性や判読性を考慮して設計されたUD（ユニバーサルデザイン）書体を使用します。
- 基準書体は以下のとおりとします。以下の書体がない場合は視認性や判読性を考慮し、類似のフォントを使用します。
- 伊勢らしさの表現として明朝体の使用を基本とします。ただし文字サイズが小さく情報が複雑になる地図中では視認性の高いゴシック体を使用します。

基準書体

明朝体

日本語：UD黎ミン

伊勢神宮 内宮 外宮
あいうえおかきくけこ
アイウエオカキクケコ

英語：Garamond

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789

ゴシック体

日本語：ヒラギノUD角ゴ

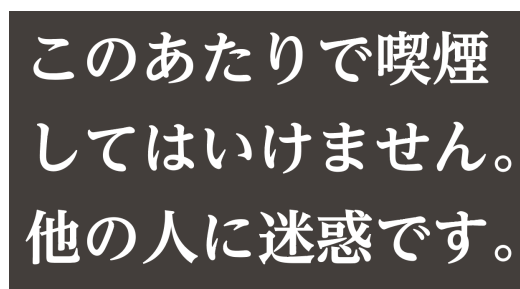
伊勢神宮 内宮 外宮
あいうえおかきくけこ
アイウエオカキクケコ

英語：Frutiger Next

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789

2-4 ピクトグラムの使用

- 該当するピクトグラムがある場合は、すべてのサインで使用することを基本とします。
- ピクトグラムを利用し、直感的な情報伝達に努めます。
- ピクトグラムと組み合わせる文字情報は端的でわかりやすい表現とします。



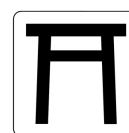
- ・ピクトグラムで直感的に伝える。
- ・文章で補完的に伝える。
- ・場合によっては、図を表示し状況を正確に伝える。

- 標準案内用図記号（大部分がJIS規格化）及びJISのピクトグラムの使用を原則とします。
- 独自にピクトグラムを作成する必要がある場合は、標準案内用図記号のイメージを尊重したデザインとします。
- 類似のピクトグラムは安易に作成・使用しません。

【ピクトグラム例（標準案内用図記号/JIS）】



【独自ピクトグラム例】



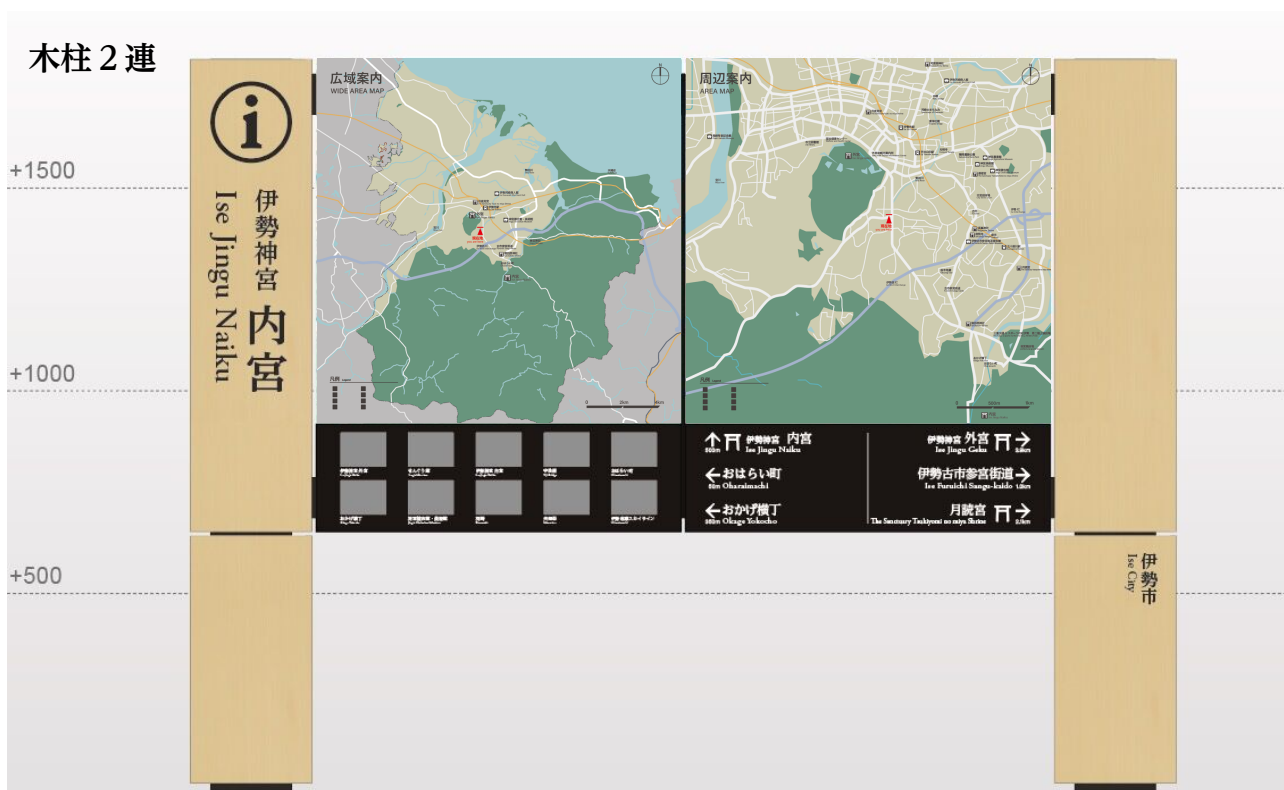
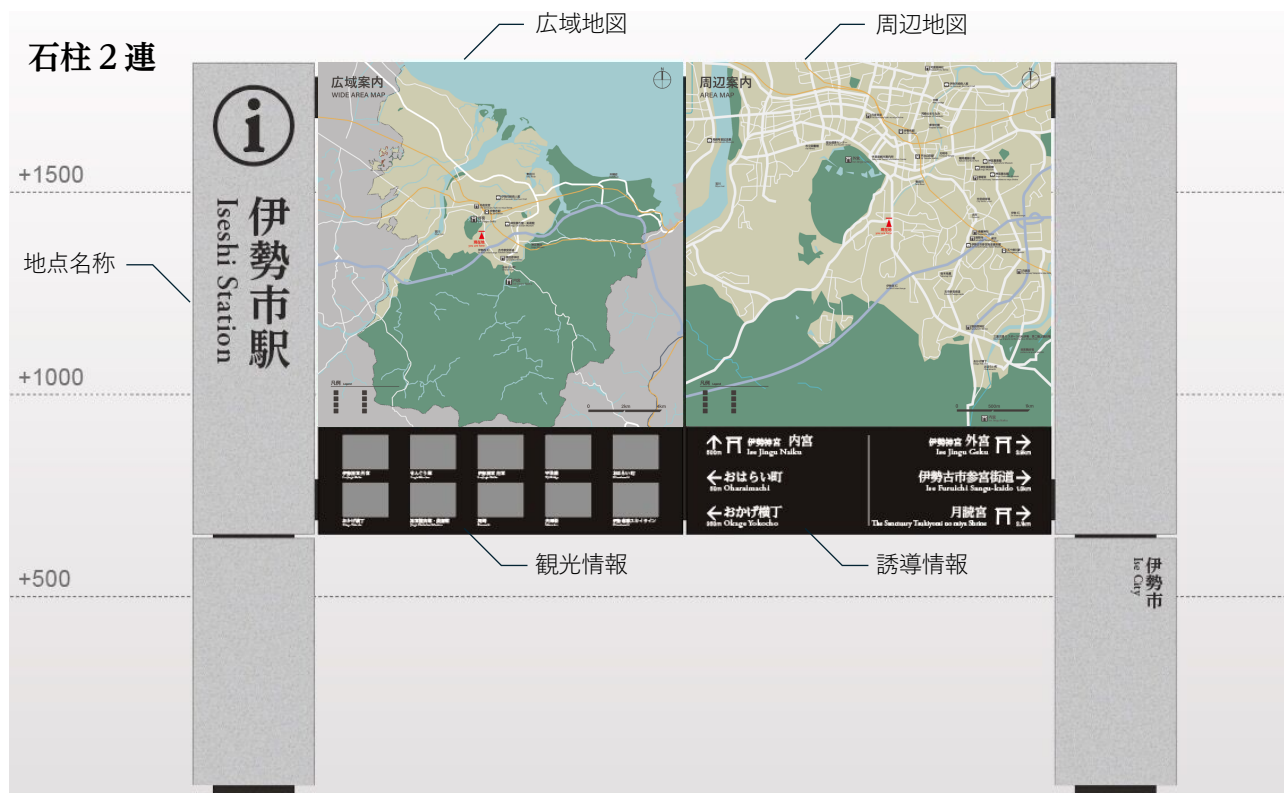
神社

「神社」の標準案内用図記号が無い場合独自ピクトグラムを作成し使用する。

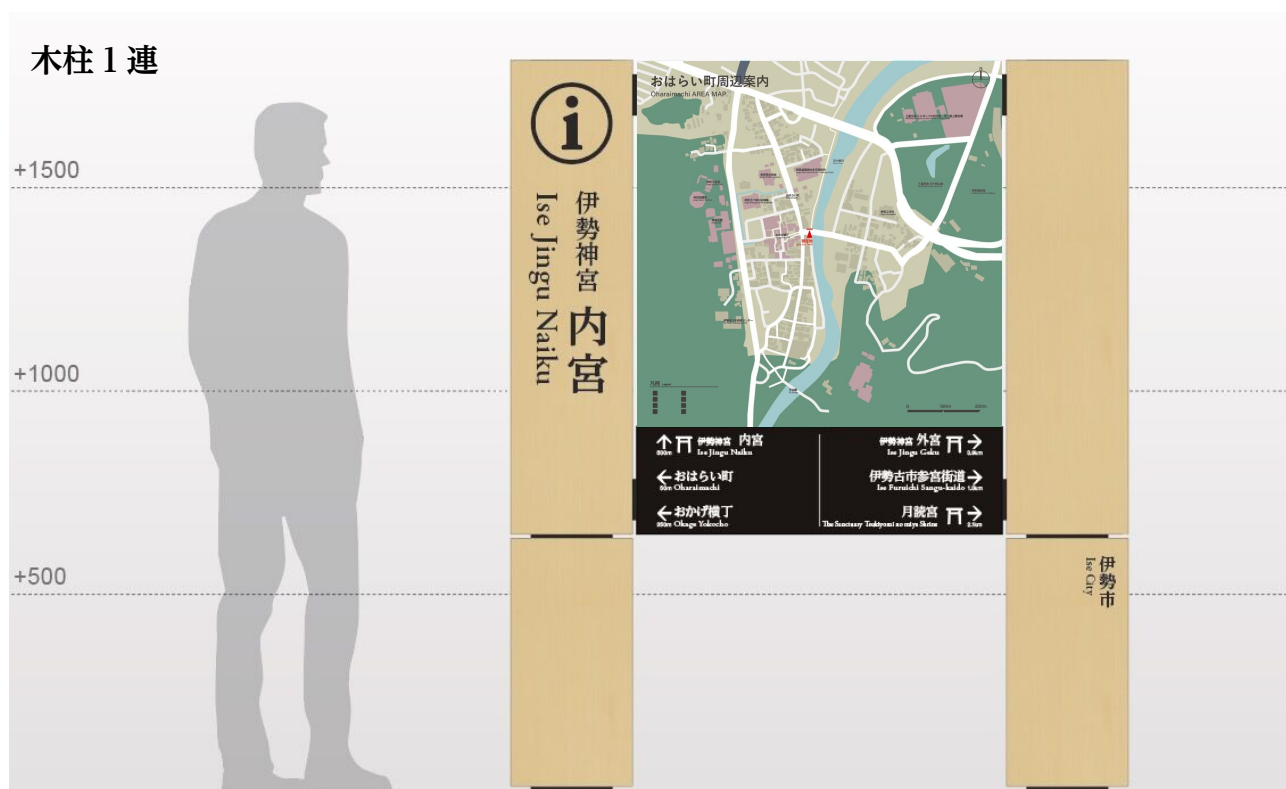
出典：「標準案内用図記号ガイドライン2021」
(2021年8月（公財）交通エコロジー・モビリティ財団)

2-5 標準デザイン

1. 案内サイン

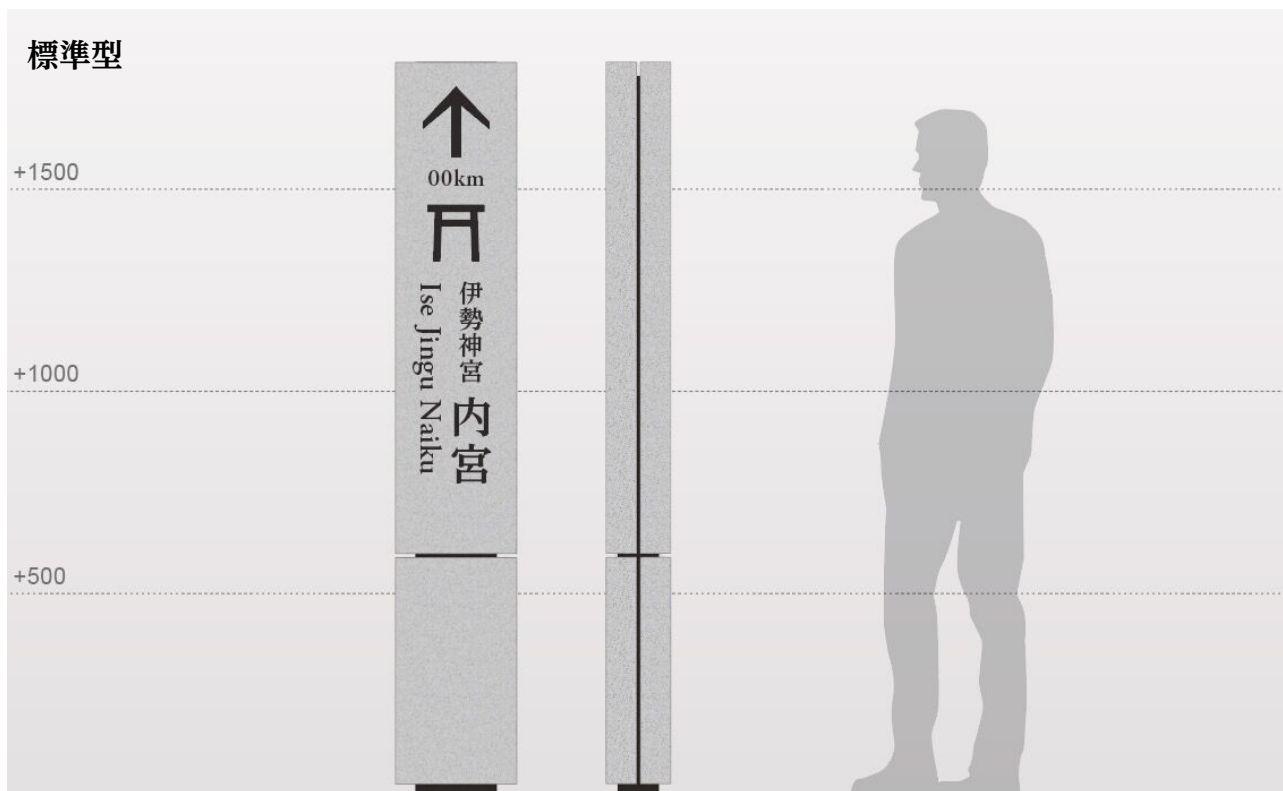


1. 案内サイン

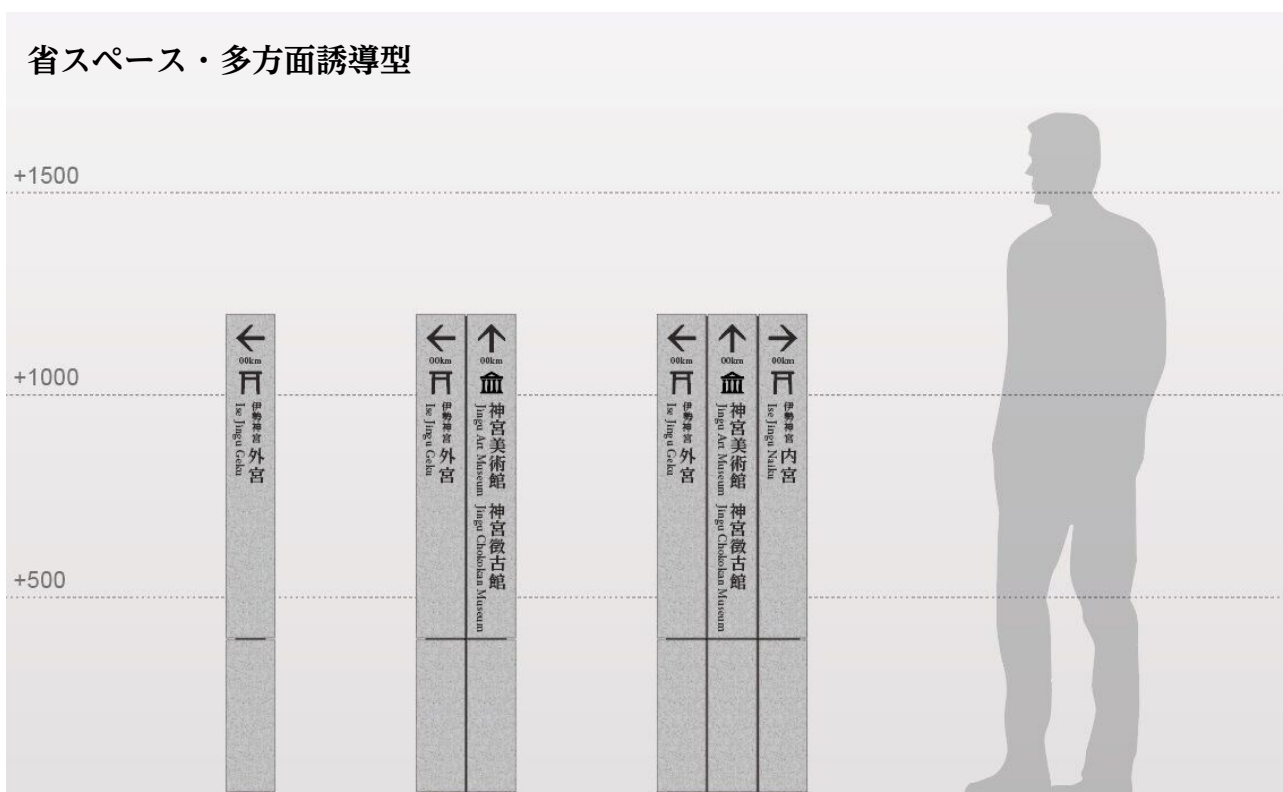


2. 誘導サイン

標準型



省スペース・多方面誘導型



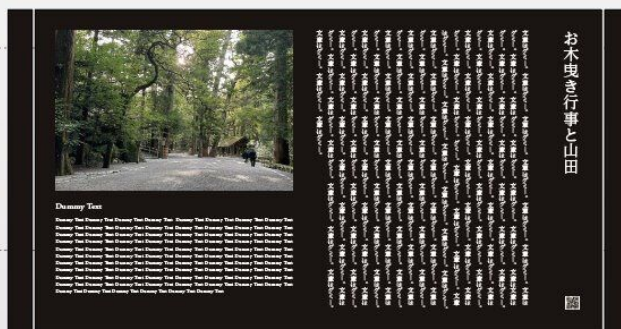
3. 解説サイン

一般型の標準表示デザイン

+1500

+1000

+500



※表示はイメージ

【メタルフォトの活用】

左図のほか、
耐候性に優れ既に整備実績もある
「メタルフォト」による
整備を行う場合があります。

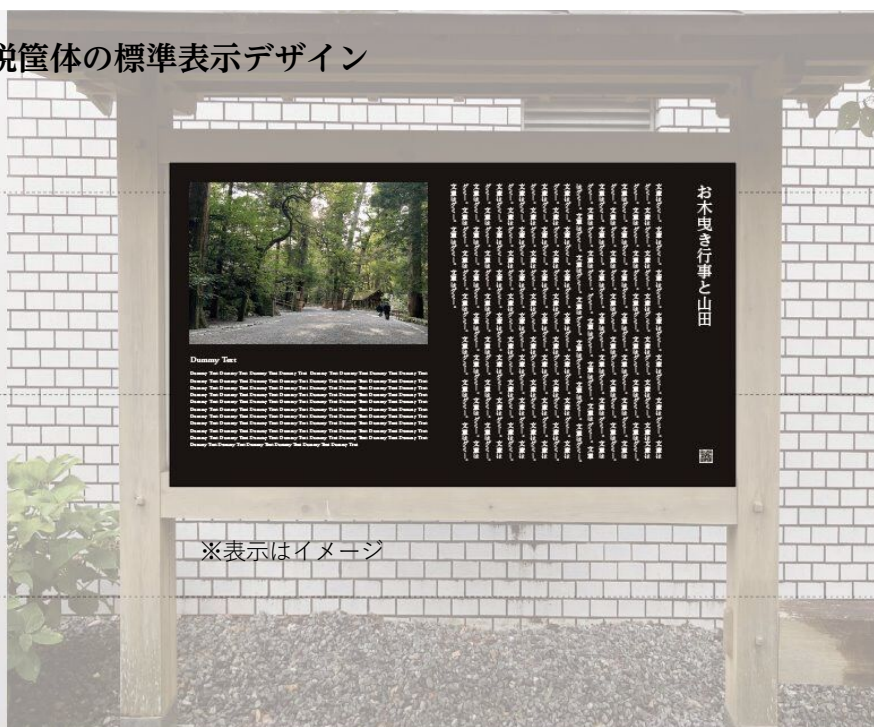


歴史解説筐体の標準表示デザイン

+1500

+1000

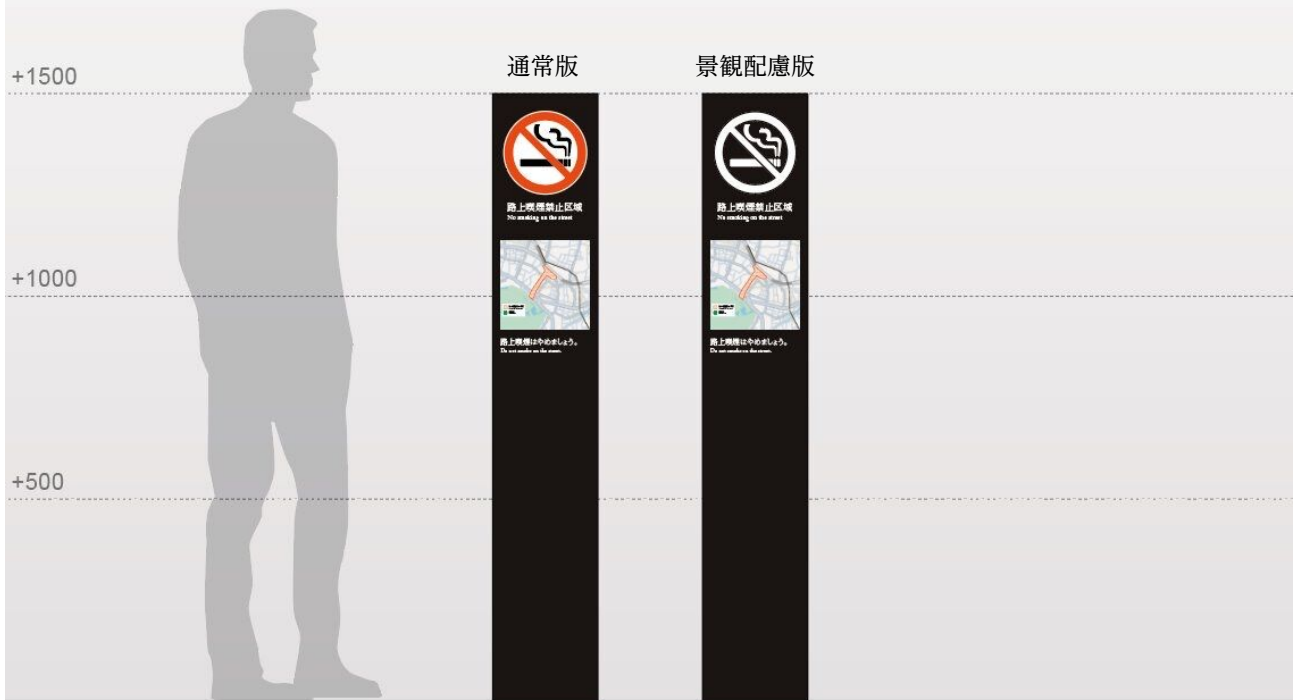
+500



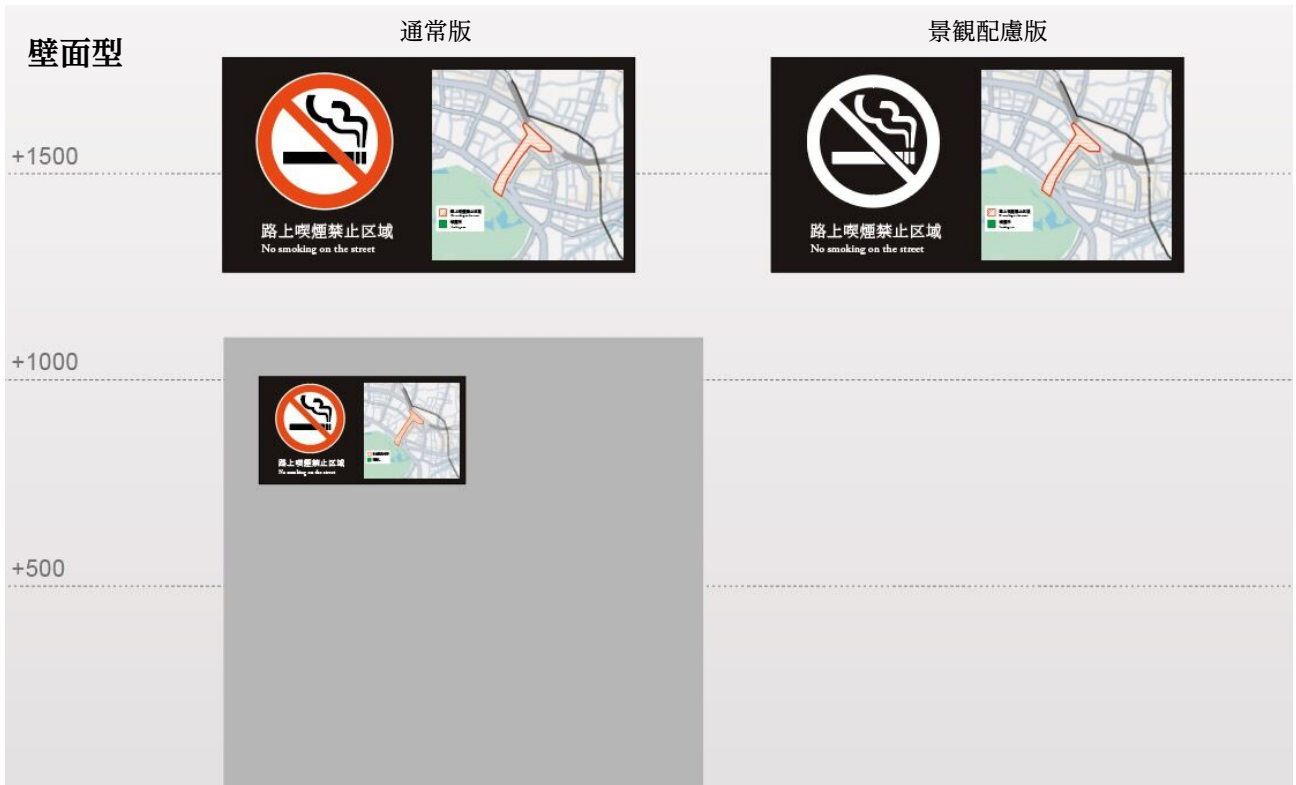
※表示はイメージ

4. 規制・禁止サイン

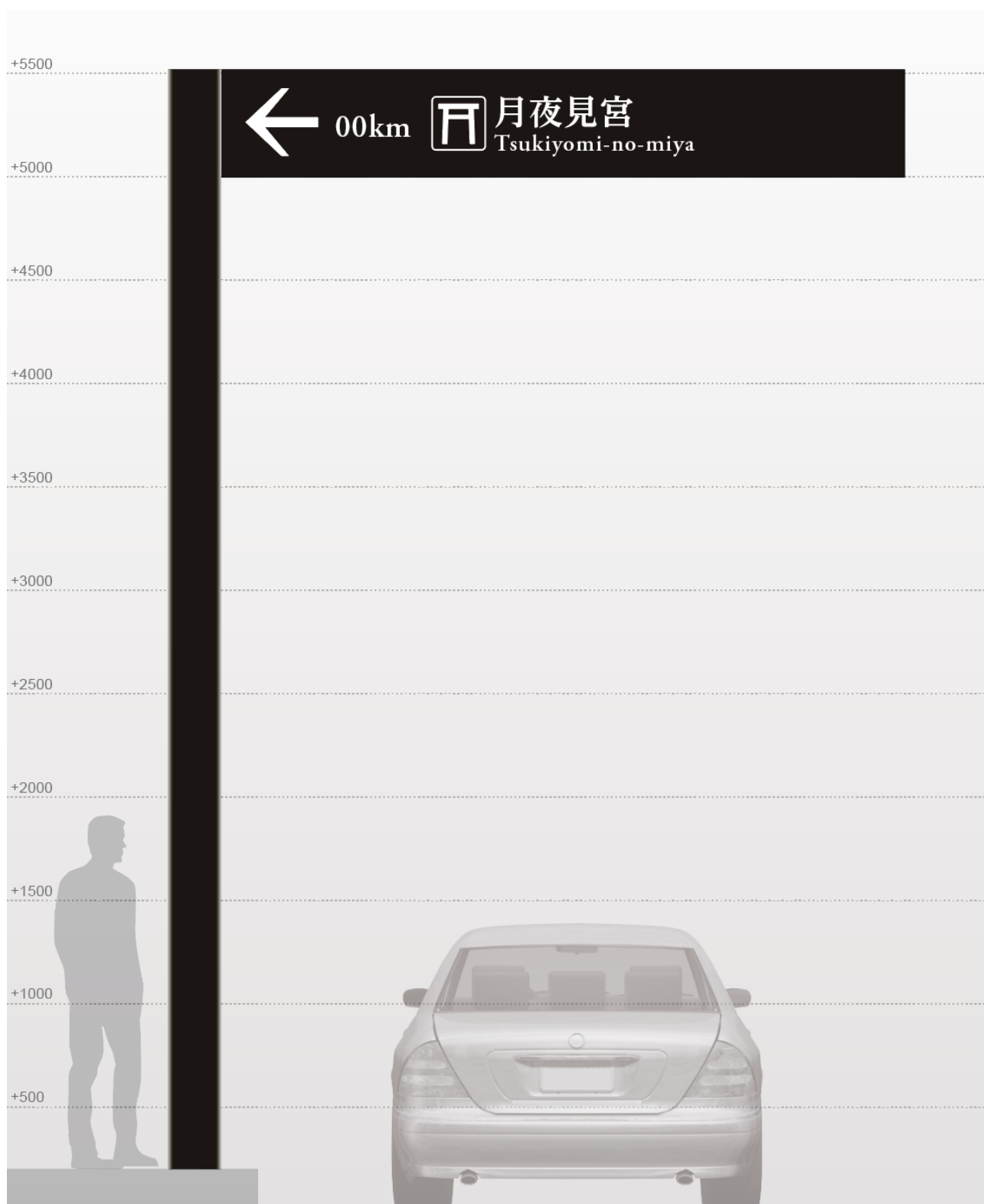
自立型



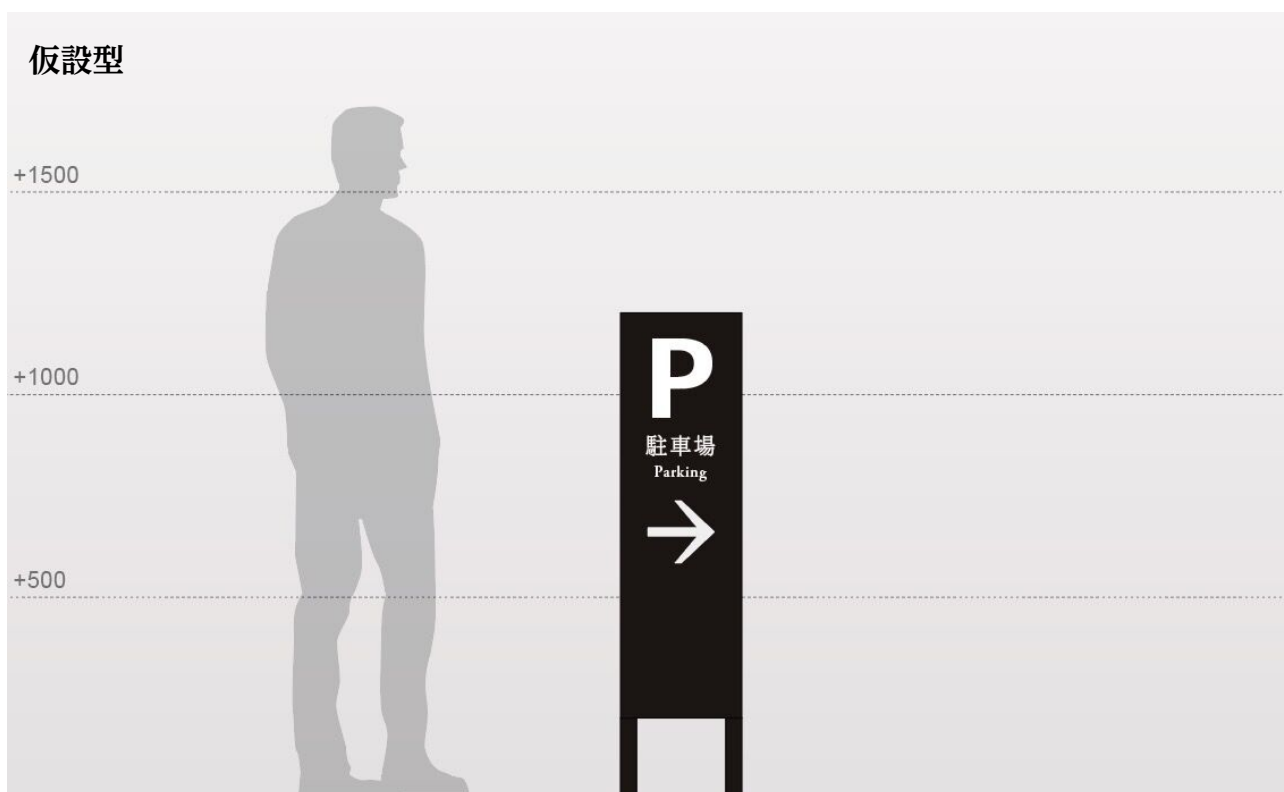
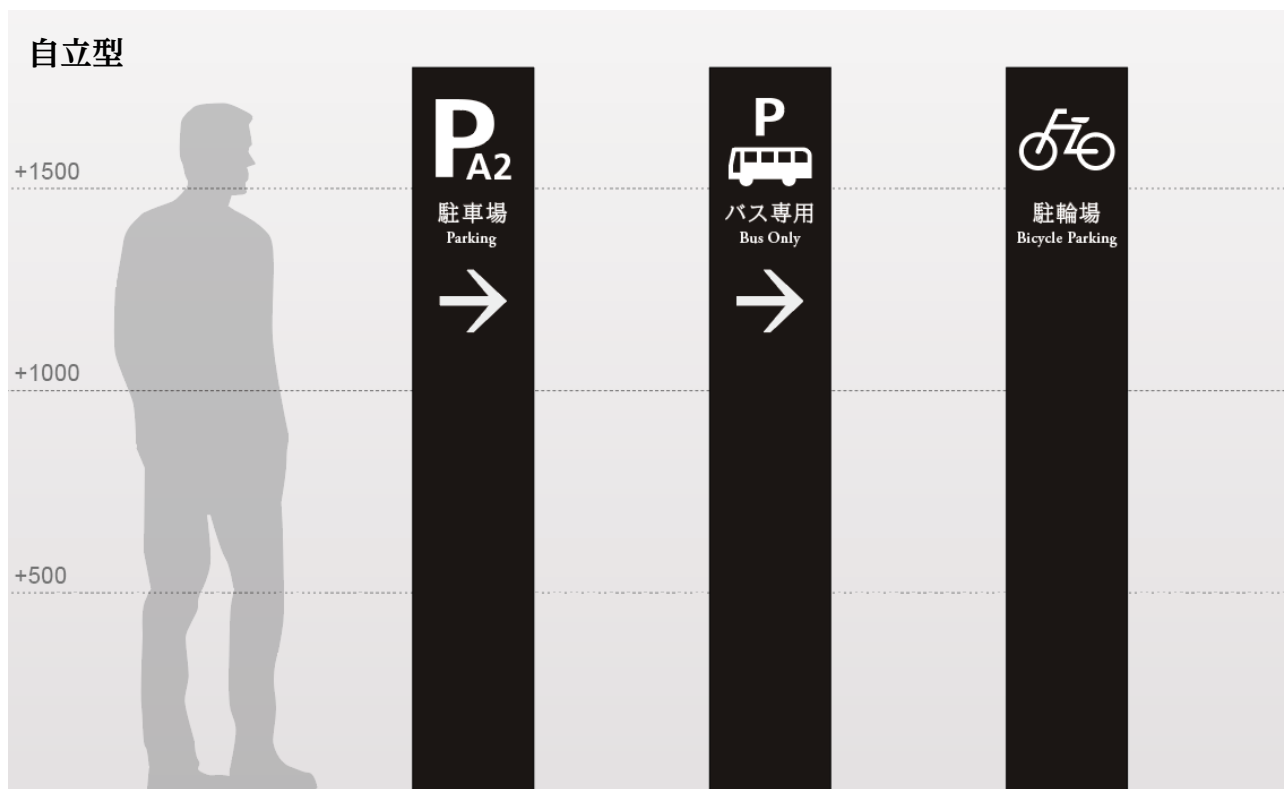
壁面型



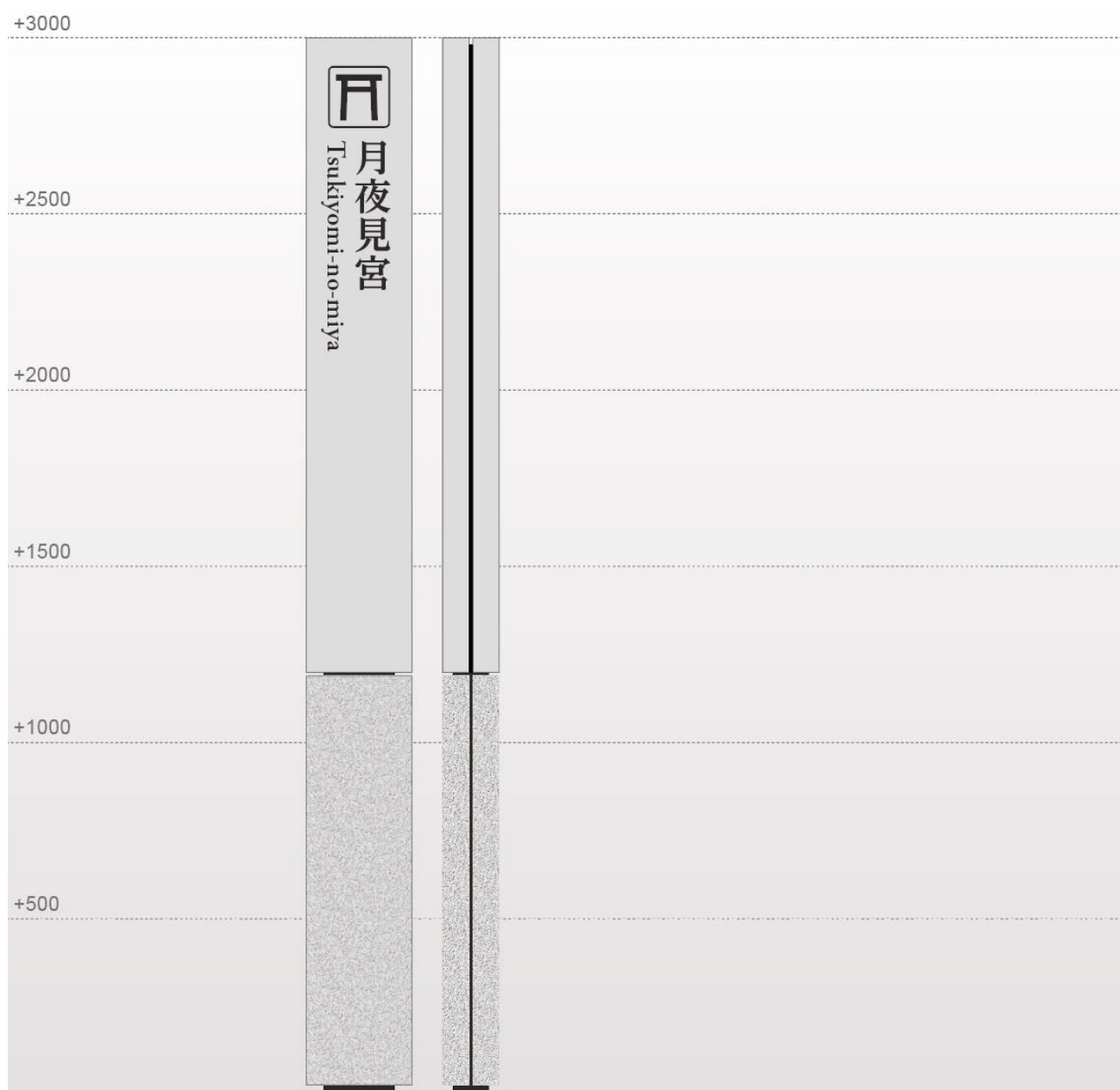
5. 車両誘導サイン



6. 駐車・駐輪場サイン



7. 施設名サイン



3-1 メンテナンスの考え方

1. 筐体のメンテナンス

- 定期的に清掃・保守点検・修繕を行い、街の美観を守ります。
- 植栽帯にサインを設置した場合、植栽の定期的な剪定を行います。
- 関係のない貼り紙は除去し表面を清掃します。
- 傷等による塗装のはがれなどは、部分的に塗装補修します。

2. 情報のメンテナンス

- 設置者及び管理者は、適宜情報更新を行い、不要な情報は削除するものとします。
- 案内サイン等の地図情報や施設名称等の変更がある場合は、速やかに表示内容を修正します。
- サインの表示面は劣化の状態を考慮したうえで、10年を目途に更新します。
- 経年等による表示面の退色や、部分的な修正箇所が多数あるものは、新たな情報を追加する際などに表示面全体の取り替えを検討します。
- 更新の際は、本計画で定める標準デザインのサインを設置し、デザインの統一化を進めます。

3. 台帳の活用

- 適切な維持管理を行うために管理台帳を設け、必要な項目を記録します。
- 台帳を活用し、更新等の履歴を記録することで、サインの維持管理の状況を把握します。

公共サイン管理台帳（案）

		サイン名	
		管理番号	
		管理課名	
設置年月日		施工業者	
設置課		施工業者 連絡先	
土地所有者		設置金額	
サイン種類		QRコード有無（貼付日）	
常設 / 仮設		仮設期間	
設置住所			
設置場所 （地図・写真） （住宅地図の写真）			
サイン写真			サイズ
			本体：
			表示：
			仕様
点検・補修履歴			本体：
			表示：
			照明の有無
備考 （参考文献）	年月日	実施内容	撤去・更新の必要性